

「浅間山のハチドリ」

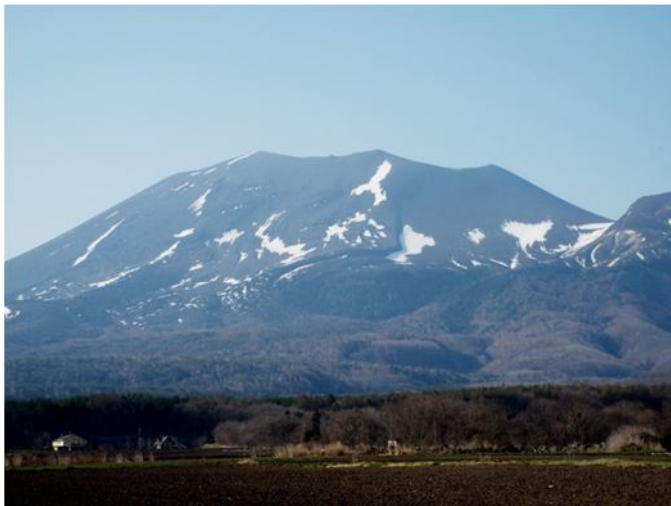
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

浅間山には春の間だけハチドリがいる・・・といったらオドロキだが、これは残雪の形の話だ。実は、どんな山でも残雪の形がいろいろな具象に見えるわけではない。例えば、吾妻川を挟んで、浅間山の反対側(北側)にある四阿山(あずまやさん)・・・浅間と同じく日本百名山に数えられ、実に堂々たる山容だが、残雪には特徴的な形のものはいない。



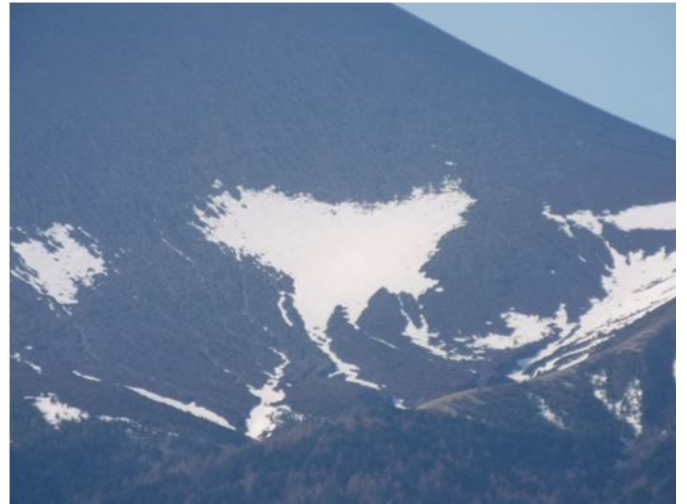
「四阿山」 嬬恋村姥ヶ原より望む 2015, -4, 25 撮影

四阿山も浅間山と同じ系列に入る火山なのだが、火山活動をやめてから 30 万年も経っている。従って浸食が進み、細かい枝谷が多数形成されて、残雪も「細切れ」になり、特徴的な形状にならないのだ。



その点、浅間山は今も噴火を繰り返す活火山なので、火山礫や溶岩流が山体を常に平滑にしている。浸食は

あっても、山体には細かい谷はない。むしろ、まとまった大きさの雪田が残りやすいのだ。4月から5月にかけては、さまざまな形の残雪が登場する。その浅間の残雪の中に、ハチドリを発見した。



「浅間山のハチドリ」 2015, -4, 25 撮影

地元の方にそのことを話したら、「あれは鶴の形だ。」と言う。確かに首の先端はツルに似ている。しかし、このように細い「首」が見えるのは、毎年数日間だけだという。雪のとけ方の絶妙な短期間だけ姿を現す、「幻の鶴」というわけだ。



「鶴舞う形の群馬県」(上毛かるた「つ」)

「鶴の形」と聞いて、私は「上毛かるた」を思い出した。群馬県の方なら誰もが子どもの時に持っていた、県下の歴史自然文物を詠んだかるたである。その中の「つ」の札が「鶴舞う形の群馬県」である。残雪の角度を少し変えてみたら、群馬県の形に見えてきた。